

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
H303	環境経済学 I	3年	講義	2	大石和博
<b>授業概要</b> この講義では環境問題を扱う経済学を学びます。特に、市場の失敗を中心にマイクロ経済学を学ぶことにより、環境政策のあり方を考えるうえで必要な基礎理論を学びます。環境と経済が身近に感じられるように、新聞紙面に出てくる温暖化問題や廃棄物問題などを取り上げながら、環境経済学の基本的な考え方を解説します。2年次のマイクロ経済学 I、マイクロ経済学 II より発展的な内容になりますが、できるだけマイクロ経済学の初歩から説明したいと思います。					
<b>到達目標(学習の成果)</b> ・環境経済学の基本的な用語(外部不経済、市場の失敗、コモンズ、公共財など)を説明することができる。(DP3) ・比較静学分析を行うことができる。(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	環境問題と経済学	講義概要、序章 なぜ経済学が必要なのか、環境経済学とは			
2	私たちの生活と環境(1)	第1章 経済発展と環境問題			
3	私たちの生活と環境(2)	第1章 持続可能な発展			
4	私たちの生活と環境(3)	第1章 ごみ問題とは			
5	私たちの生活と環境(4)	第1章 補論 支払意思、需要			
6	私たちの生活と環境(5)	第1章 補論 機会費用、供給			
7	私たちの生活と環境(6)	第1章 補論 市場			
8	私たちの生活と環境(7)	第1章 社会的余剰、地球温暖化問題とは			
9	私たちの生活と環境(8)	第1章 地球温暖化問題の経済モデル			
10	私たちの生活と環境(9)	第1章 比較静学分析			
11	環境問題発生メカニズム(1)	第2章 外部性と市場の失敗			
12	環境問題発生メカニズム(2)	第2章 共有資源の利用と管理			
13	環境問題発生メカニズム(3)	第2章 公共財とフリーライダー			
14	環境政策の基礎理論(1)	第3章 直接規制、最適な生産量			
15	環境政策の基礎理論(2)	第3章 直接規制と効率的な規制水準、自主規制			

準備学修(授業外の自己学修)

最もよい準備学修は新聞を読むことです。特に、『日本経済新聞』をできるだけ毎日読むようにしてください。

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、提出物(40%程度)、期末試験(60%程度)で評価します。ただし、遅刻、欠席および受講態度不良は減点の対象となることがありますので注意してください。

観点	S	A	B	C
環境経済学の基本的な用語を理解し、教科書レベルの問題を正しく解答することができる。	環境経済学の基本的な用語を「十分に」理解し、教科書レベルの問題を9割以上正しく解答することができる。	環境経済学の基本的な用語を「ほぼ十分に」理解し、教科書レベルの問題を8割以上9割未満正しく解答できる。	環境経済学の基本的な用語を「かなりの程度」理解し、教科書レベルの問題を7割以上8割未満正しく解答できる。	環境経済学の基本的な用語を「ある程度」理解し、教科書レベルの問題を6割以上7割未満正しく解答できる。
比較静学分析を行うことができ、教科書レベルの問題を正しく解答することができる。	数値例を用いて「正確に」分析でき、教科書レベルの問題を9割以上正しく解答することができる。	数値例を用いて「ほぼ正確に」分析でき、教科書レベルの問題を8割以上9割未満正しく解答できる。	数値例を用いて「かなりの程度」分析でき、教科書レベルの問題を7割以上8割未満正しく解答できる。	数値例を用いて「ある程度」分析でき、教科書レベルの問題を6割以上7割未満正しく解答できる。

教科書

下記の教科書を使用します。

栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ 第3版』有斐閣、2016年、税込み2,592円。

参考になる本:

- ① 諸富徹ほか『環境経済学講義』有斐閣、2008年。
- ② 環境経済・政策学会『環境経済・政策学の基礎知識』有斐閣、2006年。
- ③ 馬奈木俊介編『資源と環境の経済学 ケーススタディで学ぶ』昭和堂、2012年。

履修上の注意・学修支援

環境経済学Ⅱを履修する場合、環境経済学Ⅰを先に履修して下さい。